

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890300328		
法人名	福井県民生活協同組合		
事業所名	県民せいきょう丹南きらめきグループホーム		
所在地	福井県越前市家久町49-4-1		
自己評価作成日	令和5年12月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『あなたらしいつまでも』を理念とし、「せいきょう10の基本ケア」をケア指針に利用者の在宅生活を最期までサポートしています。「せいきょう10の基本ケア」とは、利用者自身がQOL(生活の質)を高めることを目標とし、自己選択・自己決定を促しています。具体的には、病気にならない衛生的な環境を整備し、立位・歩行等の動作を意図的に行う生活行為づくり、地域での社会参加を行うことで利用者のしたいことを継続できる体づくりや心のサポートを行っています。自らの「~したい」の実現のため、また、自分らしく最期まで生活できるように日々利用者の思いを大切にケアを実践しています。グループホームとしては、認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境の中で、地域住民の協力のもと、共同生活を通じて、食事・入浴・排泄などの日常生活の支援及び心身の機能訓練を行うことにより、利用者がその有する能力に応じ可能な限り自立した生活を営むことができるよう援助する。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和6年1月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である「あなたらしいつまでも」を掲げ、せいきょう10の基本ケアを指針に事業を運営している。丹南きらめきグループホームは丹南きらめきが提供する8つのサービスの1つで、その他には一般形デイサービス、居宅介護支援事業所、ホームヘルプサービス、小規模多機能ホーム、認知症対応型デイサービス、地域包括支援センター、サービス付き高齢者向け住宅を事業展開している。グループホームでは「~したい」という思いの引き出しや地域活動への参加など日々模索しながら、認知症になっても自分らしくいきいきとした生活が出来るケアが実践されている。実際に利用者の表情も明るく、ホールには笑い声が飛び交い賑やかな空間で生活されている。今年度は天満宮祭り、船岡神社祭り、武生商工デパート(高校生主催のイベント)へ参加するなど積極的に活動を行い、年度末には丹南きらめき全体の家族会の開催を予定し、利用者、家族との交流機会も充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生協の福祉理念である「あなたらしさいつでも」が事業所に掲示されており、共有されている	「あなたらしさいつでも」という法人理念の下、毎年度、職員からの思いや意見を反映した事業所内目標を設定している。設定した目標をカード型にして携帯する事で常に意識しながらケアに取り組める体制を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事やイベントへの参加(防災訓練、社会奉仕活動など)。ボランティアの人との交流など、再開した。	自治会には法人全体で加入し地域活動を把握し地域の祭りや近隣高校が開催するイベントへも積極的に参加している。また認知症サポート養成出張講座なども行っている。事業所同階には地域交流スペースTudotte(つどいて)を作り地域住民が自由に利用できる空間があり、地域と交流できる機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェでの、認知症の周知や理解普及に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より運営推進会議を開催している。当事者及び家族の参加を募り、意見交換会などを実施している	利用者、家族、民生委員、区長、シニアクラブ会長、市職員、地域包括支援センター職員が参加し、きらめきファミリーミーティングと題して2か月に1回開催している。会議を通して事業所の活動内容報告や地域活動の情報収集を行っている。また会議の日に合わせて防災訓練を実施するなど地域住民にも行事に参加してもらえるような取組みを行っている。	議事録は、自由に閲覧できる状態にあるが、参加されていない家族への配布は行えていないため、メールや郵送等で周知できる体制が作れることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や適宜市に相談している	市職員との関わりは少ないが、運営推進会議の場で担当者と意見交換を行っている。また代表者が常々介護保険計画に関して意見や動向を確認し運営に活かせるよう取り組んでいる。地域包括支援センターとの関係については同法人が運営している事もあり関係は密で、行事運営などで協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回研修を実施している。防犯の関係上大元の施錠はしているが、実際は入居者が自由に出入りできる環境を整備している	身体拘束に関するマニュアルを整備し、年1回身体拘束研修(動画視聴)、外部研修への参加、毎月のミーティング時にも話し合う場を設け、より良いケアに繋げている。利用者に対して気になる声かけを行っている場合は状況を確認し適切な対応を伝えている。事業所外入口は7時解錠、21時施錠とし事業所内扉は施錠せず自由に行き来が可能である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回研修実施し、防止に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解が薄いため今後研修や学ぶ機会が必要である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人への説明と同意を必ず確認している。契約時に尋ねるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や声の集約する仕組みがある。年1回アンケートの実施をし、意見の集約をしている	利用者満足度アンケートの実施や丹南きらめき全事業所を含めた家族会の開催を予定し、利用者、家族の思いを捉え利用者主体の事業運営を行っている。利用者の日頃の様子はメールを活用し家族へ生活状況を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングの実施と年1回の方針検討会を実施し、意見や提案を聞く場を作っている	年3回職員面談機会があり、設定した目標に対する達成状況、意見や要望の確認を行っている。日常的に生まれる職員の気づきやアイデア等、些細な事でも用紙に記入し投函する箱を設置し、思いを集約できる体制を整えている。意見要望については迅速かつ適切に返答している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を用いて個人目標の設定をし取り組みを進めている。また、職員満足度調査をうけ労働条件改定に繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は3ヶ月のOJTの実施。法人内では無資格者への支援として働きながら資格の取得推進をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はサービス部門の会議の開催や、法人外は他職種連携会議への参加をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間を空けずに本人の声に対する対応や、利用者の声をそのまま記録に残し共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめな情報の収集やメールでのやり取りを行い、困った時にはすぐ連絡をもらえる関係を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の声を聞き取りし、アセスメントに反映している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理、配膳、洗濯など入居者ができることは職員と一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊を通して家族との関係性の維持、適宜メールでのやり取りや、病院受診の依頼など本人と家族を切り離さないこととしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域交流室での面会や本人の馴染みのあるお店との関係の継続をしている。	入居前、入居後に利用者、家族との会話の中からこれまでの馴染みの関係を聞きケアに繋げている。馴染みの場所へは家族の付き添いをお願いし、これまでの関係が切れないよう協力依頼をしている。知人友人の来所も多く開放的なケアを実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士を繋ぐ仕組みや、声の共有、外出やイベントを通じて利用者同士の関係性を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中においては適宜、病院の医師や家族との連携を継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人一人一人の意見を聞きサービスに反映している	利用者に対する担当制はなく、利用者の思いを職員全員が柔軟に聞きミーティング等で共有している。利用者が言い難いことがあれば部屋で話を聞く等の配慮をし、個別ケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や入居時に本人や家族にこれまでの生活などの情報を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録やスタッフミーティングを通して共有を図っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングや記録から介護計画に反映し作成している	月に1回モニタリングを実施している。利用者の日中夜間の様子を各職員から情報収集するとともに、家族へ状況を伝達し希望要望を把握した中で、適切にケアプランを作成している。身体状態の変化に合わせて担当者会議を開催し適切なケアマネジメントを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とモニタリングや月1回のスタッフミーティングを通して情報の共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イベントや交流会の開催を検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントへの参加や日常的な買い物の支援や外出をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて受診同行し医師に情報共有をしている。また、受診時にはこちらの情報を提供し適切な支援を受けられるようにしている	利用者が今までのかかりつけ医を継続できる体制を整えている。事業所として協力医療機関を設定しており希望される方に対しては紹介している。受診については基本的には家族に付き添いを依頼しているが緊急時は職員が付き添う事もある。医療機関へは情報シートを活用し詳細な生活状況を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の状況を報告連絡相談をしている。また、判断に迷った時は、常時連絡をとれる体制ととっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の提出や日常的な情報の提供、適宜状態確認の連絡をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には本人や家族の意向を聞くようにして。が、看取りや終末期に伝えていく必要がある。	終末期の対応はまだ無いが、VRでの看取り研修を通じ職員間で話し合い、マニュアルを整備している。入居時に意向確認シートを活用している。状態に合わせて意向の確認が取れる体制も整えている。重度化で医療が必要になる場合は関係機関の紹介も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心肺蘇生法などを学び、緊急時の備えをしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施を年2回開催。今後については、災害に伴った訓練を実施し備えをすすめる	年2回避難訓練を実施しているが夜間想定訓練は未実施である。水害地域になっている事もあり災害を想定した訓練を計画し法人全体で行っている。事業所内で備蓄品の用意はしていないが有事の際は近くの系列店舗からの食料支援を想定している。ブルーシートや簡易トイレの備えは出来ている。	夜間を想定とした災害訓練を実施し、利用者や職員の不安を少しでも解消することを期待する。また備蓄品として長期保存できる食材や水を備える事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人に配慮した声かけ、研修の開催し学びあいを実施している	個人情報保護に関するマニュアルを整備し研修会を実施している。不適切な言葉かけがある場合は、都度指摘できる環境であり、利用者が不快にならないように配慮している。個人情報の書類については鍵がかかる棚で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いの聞き取りや自己選択自己決定できる仕組みを作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にあつた価値観を尊重している。本人たちがこれまで生活してきたスタイルをそのまま過ごしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服の選択をしてもらっている。また、自分で整容できるよう声かけをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けや準備など5感を感じながら食事をしている。また、たまには外食といった機会を設け、自分たちが食べたいものを食べるようにしている	主食、みそ汁は利用者と共に作り、副菜については外注業者から届いたものを利用者と共に盛り付けて提供している。野菜切りや配膳なども共に行っている。自家菜園で夏野菜を育て収穫物は食事で提供している。誕生日会では希望により外食を行うなど、食の楽しみをケアにと取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握は記録に残すようにしている。水分についてはこまめな声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夜の食事後の口腔ケアの声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表は用いず、個々に合わせた支援の実践をしている。ただし、排泄の記録は残すようにしている	排泄記録はタブレットで管理し、全職員が個々の排泄パターンを把握できるようにしている。居室から近いホール内の2か所にトイレが設置を便座し、下肢筋力低下予防を目的にあえて低めの造りとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけ、運動など実施し規則正しい生活が送れるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせて入浴の回数や曜日を設定して。また入る時間なども本人に聞くようにしている	利用者の希望に合わせて入浴回数を決め基本的に同性介助でのケアを提供している。檜木と畳を使用した一般浴槽があり個別対応を行っている。一般浴槽で入浴が困難な利用者については系列事業所の特別浴で入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツなどのいりネン交換を随時行い気持ちよく寝てもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬の情報共有や、服薬後の状態把握などを確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでやってきた趣味や好きなことを継続して取り組んでもらえるように支援している、		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や本人の意向を聞き取り、声から外出するようにしている。また、外食などに出かけることもある	活動内容の選択肢を幾つか提示する朝の会、昼の会を毎日開催する事で、利用者からの発言をもとに外出行事などを実施している。体験型が喜ばれるためパン作り、そば打ち体験に参加したり、誕生日会では希望により外食を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い管理をし、家族にも協力をもたらしている。本人の生活に必要なものがあれば適宜買い物支援として出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で携帯電話を所持している入居者いたり、事業所の電話を使用をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適宜家具の配置の変更や音の大きさなど不快に感じないような配慮をしている。季節感を感じる空間を作ったりしている	南側に大きな窓があり採光もよく明るい共用空間となっている。木を基調として落ち着いた雰囲気の中、テレビから自然の音、画像を流すヒーリングを実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど本人が過ごしやすいように選べる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の個室には、これまでの生活で馴染みのあるもの等を持ってきてもらうなど環境を整備している。	和室3室、洋室6室があり各居室ともに洗面所が設置され、使い慣れた馴染みの物を持ち込み、居心地の良い空間を作っている。また創作物や写真なども飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの掲示、お知らせ掲示板など作成し本人の自立を促している。		